

都市再生整備計画

ちゅうしんし が いち かっせい か かお ちく
中心市街地活性化のための顔づくり地区

わかやまけん ありだし
和歌山県 有田市

平成19年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	和歌山県	市町村名	有田市	地区名	中心市街地活性化のための顔づくり地区	面積	7.4 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度				

目標 大目標: 市の玄関口の顔づくりによる中心市街地の活性化 1. JR箕島駅の駅前広場や公衆トイレの整備により、市民や来街者のニーズが高い生活交流の基盤施設を充実することで、中心市街地の活性化を図る。 2. 有田市の玄関口である箕島駅に交通利便施設を整備し、市民の利便性、快適性を向上することで、駅前地区及び中心市街地の活性化を促す。 3. 交通結節点であるJR箕島駅を起点にデマンドミニバスの運行実験等を行い、駅や公共公益施設を結び公共交通の利便性を増進させ、歩いて暮らせるまちを形成する。 4. 各種事業を通じて住民のまちづくりへの機運を高め、住民参加型まちづくり活動の活性化を図る。
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 ・本市は、和歌山県の中央部、有田川の河口に位置し、古くから商業や流通などの中心地として栄えてきた。中でもJR箕島駅周辺は、公共交通の拠点であり、商店街を形成する中心商業地として役割を担ってきたが、近年、人口減少と地域住民の高齢化が進行し、商業が衰退している。 ・現在、箕島駅前地区では都市計画道路望月港線の整備が進み、地区内交通の円滑化が見込まれる中で、JR箕島駅前広場の交通結節点機能の充実を図り、市の玄関口としてのイメージ向上と利便性向上が望まれている。 ・本市では、第3次有田市長期総合計画を策定し、「あなたとわたしがつくる美しい快適なまち 有田」をスローガンとして、快適な環境の創造と交流の推進を図るまちづくりを展開している。また、平成15年には都市計画マスタープランが策定され、公共交通、行政サービス、文化の拠点となる多機能都市の形成が目指されている。
課題 有田市の玄関口の整備によるイメージ向上で中心市街地や観光交流の活性化が必要 ・有田市の玄関口であるJR箕島駅の駅前広場の交通環境を整備し、玄関口にふさわしいイメージの向上を図ることが必要である。 ・JR箕島駅周辺に交通利便施設などを整備し、駅前地区や中心市街地にアクセスしやすい交通付帯機能の充実を行う必要がある。 ・高齢社会が進展する中で、公共交通機能が脆弱な市内各地と駅や公共公益施設を結び新しい公共交通のあり方を検討し、市民ニーズにマッチした公共交通手段の確保が必要である。
将来ビジョン(中長期) 有田市の玄関口・商業拠点として、生活や産業基盤の充実と恵まれた交通条件や歴史文化、商業機能等のストックを効果的に活用した拠点地区の形成 ・和歌山県長期総合計画では、「交流を軸とした地域整備の展開」を有田圏域の目標として、広域交流ネットワークの形成や交流を活かした地域づくりの実現が目指されている。 ・第3次有田市長期総合計画では、「あなたとわたしがつくる美しい快適なまち 有田」をスローガンに、リーディングプロジェクトとして中心市街地の活性化を目指した駅前地区の整備等を計画している。 ・有田市都市計画マスタープランでは将来像を「市民とつくる交流のまち・都市機能が充実した人々が集う拠点都市 有田」と定めており、市街地の整備の方向性としては、中心市街地の都市機能の強化、既成市街地・集落地の環境改善、地域の核づくり、観光資源の活用が掲げられている。

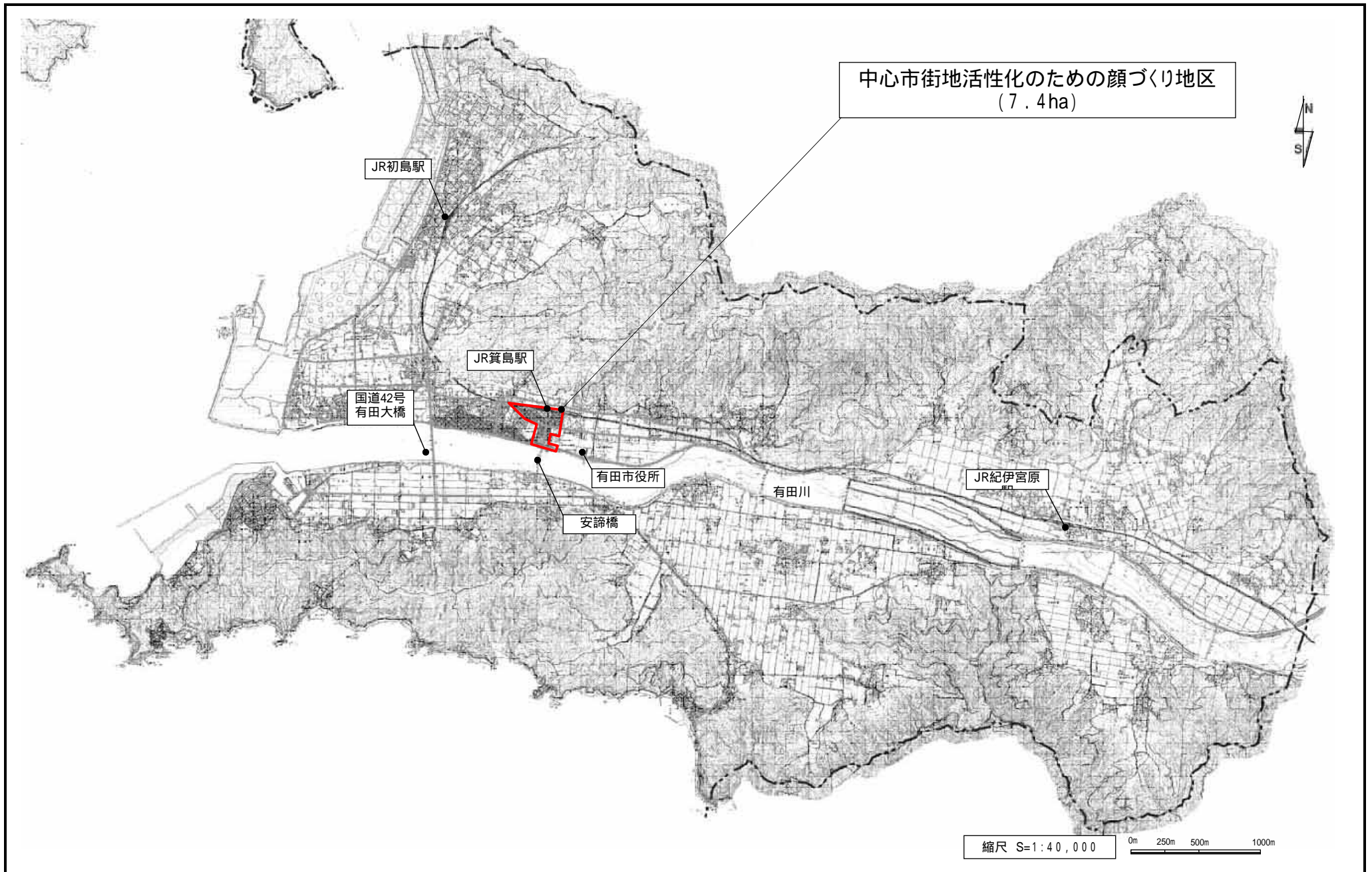
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 駅乗降客数	人/日	JR箕島駅乗降客数	駅前広場等の再整備を行い、駅前の交通利便施設の充実などにより、駅の乗降客数の増加を促す。	3,994	平成17年	4,200	平成23年
2. 観光入込客数	人/年	バス利用の観光入込み分増加による市の観光入込み客数の増加	市外からの観光入込みを増加させることにより、観光と交流のまちづくりを促す。	330,043	平成17年度	345,000	平成23年度
3. バス利用客数	件/年	市民等のバス利用客数の増加	自動車からの利用転換による乗車や利便性向上による新規利用者の開拓などにより、バスの利用客数の増加を促す。	30,000	平成17年度	36,000	平成23年度
4. 市民のまちづくり会合回数	回/年	ワークショップやまちづくり協議会等の市民の会合数	駅前広場の整備をきっかけとして、市民参加型のまちづくりを進め、市民の参画の機会を高める。	0	平成17年度	6	平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
1. 駅前広場及び付帯施設(公衆トイレ、案内サイン等)の整備による市の玄関口のイメージの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・箕島駅前広場整備事業 ・箕島駅公衆トイレ整備事業(構外) ・箕島駅公衆トイレ整備事業(構内)
2. 有田市の玄関口のJR箕島駅に近隣利用者に配慮して、交通利便施設を整備し、市民が利用しやすい環境形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・箕島駅前駐車場整備事業 ・箕島駅前駐輪場整備事業 ・箕島駅前シェルター整備事業
3. 交通結節点であるJR箕島駅を起点にデマンドミニバスの運行実験等を行い、市内公共交通の利便性の増進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドミニバス運行社会実験事業
4. 各種事業の展開において市民参加を得るソフト施策を同時に実施することで、市民参加型のまちづくり活動を促進する。また、ハード事業の相乗効果が期待されるソフト事業を展開することで、中心市街地の活性化効果を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会運営等事業 ・地域交通会議運営事業 ・市民参加型イベント開催事業
<p>その他</p> <p>事業終了後の継続的な活性化の展開 当地区では、社会実験を通じて高齢社会における公共交通機関の今後のあり方を検討し、市民が中心市街地に集える環境を創出していくために、市民、行政、民間事業者が連携したワーキングテーブル等を設置し、協働による取り組みを進める。</p>	

中心市街地活性化のための顔づくり地区(和歌山県有田市)

面積	7.4ha	区域	有田市箕島地区の一部
----	-------	----	------------



中心市街地活性化のための顔づくり地区(和歌山県有田市) 整備方針概要図

わかやまけん ありだし

目標	市の玄関口の顔づくりによる中心市街地の活性化	代表的な指標	1. 駅乗降客数 (人/年)	3,994 (17年)	4,200 (23年)
			2. 観光入込客数 (人/年)	330,043 (17年度)	345,000 (23年度)
			3. バス利用客数 (人/年)	30,000 (17年度)	36,000 (23年度)
			4. 市民のまちづくり会合回数 (人/年)	0 (17年度)	6 (23年度)

